

令和3年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	長崎大学	タイプ	A①
事 業 名	アジアの大学間連携による持続的社會基盤整備を支えるグローバル人材育成事業		
海外の相手大学	山東大学、成均館大学校、南洋理工大学、ラオス国立大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、アジア各国のニーズをふまえた社会基盤を支えるインフラストラクチャーを整備維持する人材育成を目指しており、二つの柱で構成されている。一つは、①第2モードで構築した修士課程のダブル・ディグリープログラムを発展させ、新たに構築する「博士後期課程のダブル・ディグリープログラム」、②オンライン教育と実渡航留学による「ハイブリッド型短期留学」、③インターンシップを含む「ASEAN 拡張型短期留学」という3つの交流プログラムである。もう一つは、①若手研究者育成への貢献を企図した「国際コラボレーションラボ」、②卒業・修了後も継続的に交流を促す「キャンパス・アジア同窓会」という2つの支援プログラムである。

本事業では、既存の日中韓の枠組みに加え、シンガポールとラオスの大学との新規連携が含まれており、前者は ASEAN の中でもインフラ整備が進んでいる国として、後者はインフラ整備が発展途上にある国として取り上げており、日中韓を含む5か国間連携を促進するための長崎大学の役割と貢献が期待される。また、本事業はテーマを含め、計画全体が新型コロナウイルス感染拡大以前から取り組んできた地球規模課題への対応と解決への貢献を目指す国際的な人材育成とそのための教育研究体制の整備と位置づけられており、それらが今後より一層発展することを期待したい。

一方で、英語力の目標基準が低いため、参加する学生によっては英語力不足のため教育的効果が十分得られないことが懸念される。また、本事業で養成しようとする人材像が抽象的であることから、本事業を通して具体的に学生にどのような能力を身につけさせるのかを明確にし、事業を推進することが望まれる。更に、山東大学及び成均館大学校との間では単位互換が実施される計画となっているが、南洋理工大学、ラオス国立大学との間の単位互換では具体的な数字が示されていない。また、プログラムの質保証の枠組みとしては、評価委員会の設置、自己評価の実施、外部評価委員会の開催を通じ、定期的評価と改善を行うとしているが、これらの内容は事業の成否を左右する課題であり、交流相手大学との具体的かつ慎重な調整が求められる。

最後に、今回選定された貴学においては、将来の我が国と相手国との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。